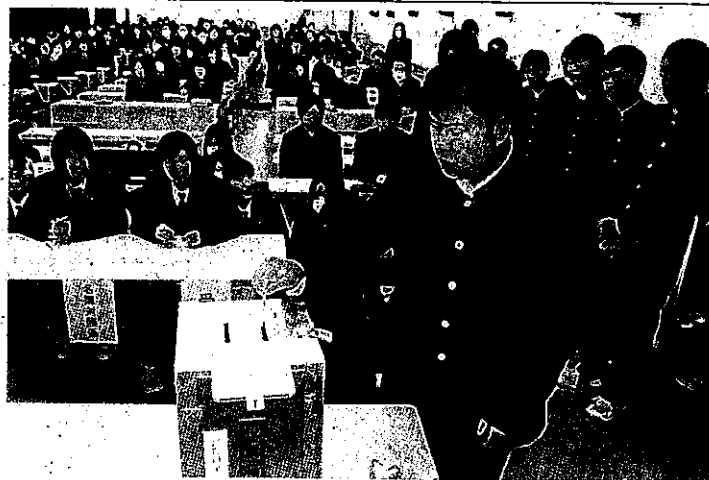


政治や選挙へ関心を

花北青雲高 生徒が模擬投票体験



生徒が模擬投票を体験する

県明るい選挙推進協議会(小野寺英二会長)が主催する明るい選挙啓発授業は22日、花巻市石鳥谷町北寺林の県立花北青雲高校で行われた。生徒たちが、グループワークや模擬投票を通して、投票の仕組みなどを学んだ。

同授業は若年層の選挙制度や政治への関心を高め、投票率アップにつなげようと小中高生を対象に2006年から実施。県選挙管理委員会の布佐明彦さんが講師を務め、同日は3年生約150人が受講した。

布佐さんは「20代前半の投票率は約30%と年代の中で一番低い」「今後、選挙権が20歳から18歳に引き下げられるかもしれない」などと説明した。続けて、グループワークで若者の投票率を上げるための案を出し合った。

模擬投票では実際の投票箱や記載台を使用し、投票から開票までの流れを学習。生徒らは架空の三つの政党の中から、政策などを考慮して1票を投じていた。

谷地桜子さんは「父と政治の話をしているので、選挙には興味があった。模擬投票では政党名を書き間違えてしまったので、本番では気を付けたい」と話していた。授業を見守った小野寺会長は「政治や選挙に親しみを持ってもらうことが大切。若い頃から選挙に触れれば、大人になってからも興味や関心を持つてもらえるはず」と期待していた。